

■栗原信充 国学者・有職故実家。屋代弘賢のもとで、長く研究に励み、師の死後、多くの著作を成した。

くりはらのぶみつ

ワシタ 正月・1794=

生。甲州巨摩郡栗原の人。父栗原和恒の時江戸に出て、幕府の御家人となり奥御右筆を勤め、駿河台下紅梅坂に住み、信充もそこで生まれた。

アメリカ船来航始1803=9歳：

二十歳の時初めて屋代弘賢にまみえ、その指導を受け、膨大な弘賢の蔵書(不忍文庫)の閲覧を許される。また、漢学を柴野栗山に学び、弘賢とも交友のあった平田篤胤からも教えを受けたという。

・・・・・・1810=16歳：弘賢がかなり以前から編述中であった「古今要覧稿」の編集を正式に幕府から命ぜられると、

高田屋拿捕・1812=18歳：それに参画し、各地に調査に赴き、また多くの学者・工芸家とも聴聞交流を重ね、とくに武具・馬具古器物に対して関心深く、その来歴・考証に秀れた研究を残す。

水野忠成老中1818=24歳：

群書類従完結1819=25歳：「古刻書践」,

蝦夷地直轄終1821=27歳：

富籤流行・・1830=36歳：

大塩平八郎乱1837=43歳：

蛮社の獄・・1839=45歳：

天保改革始・1841=47歳：師屋代弘賢が死去、

天保改革弾圧1842=48歳：\*この年成った弘賢編「古今要覧稿」の中でも信充の「御陵墓考全部」はその志をよく表すものと伝えられる。

順天堂始・・1843=49歳：「玉石雑誌編」「鎧色図説」「墾工譜略」「統武将感状記編」,

天保改革終・1844=50歳：「応仁武鑑」,

阿部正弘首座1845=51歳：

・・・・・・1848=54歳：「柳庵雑筆」,

尊徳報徳論・1851=57歳：「続王代一覧編」,

ペリー来航・1853=59歳：

開国開港・・1854=60歳：「木弓故実撮要」,

安政大地震・1855=61歳：「飼馬必用」,

蕃書調所・・1857=63歳：

桜田門外変・1860=66歳：

禁門の変・・1864=70歳：「職原鈴私記」。薩摩藩主島津久光に聘せられて、鹿児島へ赴き、

薩長同盟・・1866=72歳：\*久光の助力で、「令義解」の講義のうち、「軍防令講義」(全8巻)を出版(序文は久光の筆にかかる)。柳庵流の鎧の指導にあたるなど、同年上京するまで短期間であったが、その期待に応えた。

明治維新・・1868=74歳：

初の日刊新聞1870=76歳：京都一条大宮西の宅で、没した。